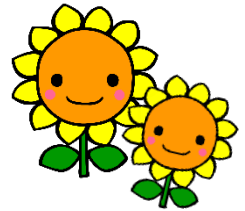


この度の西日本を中心とした集中豪雨で被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。



背比べしながらかわいい笑顔で笑っている
清瀬ひまわり畑のひまわりたちに
今年もたくさんの方が遠くから会いに来てくれました。



新たなチャレンジ「介護サポート・ピッコロ」に期待して

清瀬市健康福祉部高齢福祉担当部長

小山 利臣

子育てネットワーク・ピッコロの皆様におかれましては、長年にわたりホームビジター派遣事業を始めファミリー・サポート・センター事業など先駆的な子育て支援により福祉の向上にご尽力を頂き有り難うございます。

さて、福祉の現状を見ますと、少子高齢化や核家族化の進行による単身世帯や高齢者のみ世帯の増加、また地域のつながりの希薄化など、市民生活を取り巻く環境変化は著しいものがあります。福祉や医療ニーズ等の多様化とともに重層的な支援体制が必要となっています。このような背景から、国では地域共生社会の実現に向け「我が事・丸ごと」の地域づくりを市町村の役割としています。具体的には、今まで子供、障害者、高齢者と縦割りの中で行われている相談や公的制度ごとのサービス提供を、子供から高齢者まで全ての方を対象とし、複雑な問題を抱える世帯や制度の狭間にあるケース、地域で孤立しているケースの方に対し確実な支援を届けられるよう福祉サービスの提供、相談体制の整備、地域づくりを目指すものです。

この対応に向け、市では子育てネットワーク・ピッコロにも検討委員としてのご協力を頂きながら「福祉でつなごう 人・まち・地域～人と人を結び全ての人に寄り添うまちづくり～」を新たな基本理念とした第4次清瀬市地域福祉計画を昨年度に策定しました。また、同時に介護保険事業計画等も策定していますが、各計画に掲げた施策の実現には、昨年からは開始して頂いています「介護サポート・ピッコロ」の援助活動が一役を担うことになるのではないかと考えています。

この事業により仕事や育児・介護を同時に抱えている世帯の生活支援や昨今の介護人材不足などの課題解消につながるものと大変期待しています。

子育てネットワーク・ピッコロとの関係づくりは、活動がスタートした直後、市の母子保健事業で一時保育を快く担って頂いたところに遡りますが、これまでの経験、繋がりを確りと生かして頂き、新たな高齢者分野のチャレンジ「介護サポート・ピッコロ」に期待するとともに深く感謝申し上げます。



お願い



この度の西日本中心とした広い範囲での集中豪雨では、たくさんの方が被害にあわれました。

当団体としても、保育やいろんな活動において、いつ、そのようなことが起きるとは限らないため、想定した準備が必要となります。

震災については、避難場所の確認や災害用伝言ダイヤルを使っでの連絡方法などは確認していますが、水害においては、行政が発行している「防災マップ」や「ハザードマップ」を公共施設などからいただくなどして、利用者の方々はお住いの地域の水害に弱いところはどこか、支援者の方々はご自身のお住いの地域のご確認と、保育に行った先のことは利用者さんに伺うなどして、「もしもの時」を想定した準備をしておきましょう。

市外にお住いの方も、それぞれの行政が発行しているマップを取り寄せて確認し、支援者の方に伝えてください。

交わり・話し・活かす

毎年開催されている関東エリアオーガナイザー（ボランティアと利用者の調整役）研修会は、7月14～15日に山梨県甲府市において開催されました。駅にほど近い会場ではすっかり準備が整い、幹事を引き受けてくださった南アルプス市「ホームスタート・南アルプス」・笛吹市「ホームスタート・ゆうゆうゆう」・富士吉田市の「ホームスタート・ふわっと」のオーガナイザーさんと山梨県の職員の方がお迎えしてくださいました。また、県副知事さんも休日に関わらずご挨拶くださり、大変温かい気持ちになりました。

ホームスタートとは、未就学児が1人でもいる家庭に、研修を受けた地域の子育て経験者が訪問する「家庭訪問型子育て支援ボランティア」です。地域の専門家と協働しながら、ピア・サポーター（当事者）による寄り添う支援に焦点をあてることで、多様な親のニーズに応え、高い効果を挙げています。昔は地域ぐるみで子育てを支え合える環境がありましたが、今では地域のつながりも薄くなり、親が一人で子育てすることが多くなってきました。また、核家族化や少子化で、子どもの頃から乳児に触れる機会がないまま自身の子育てに直面する人も増えています。このような時代背景の中で様々な子育て支援がありますが、「子育てひろばなどに出かけづらい方」や「子育ての仕方が分からないなどでストレスを感じている方」へ届ける訪問支援です。

現在、北は北海道函館市から南は鹿児島県奄美市まで、ホームスタートは全国約100団体が活動をしています。そのうち関東エリア33団体からオーガナイザーが集いました。

初日は、「妊娠、出産によるうつ発症のメカニズム」をテーマにしたお話を「稚枝子おつきクリニック院長の武者稚枝子氏」にお聞きました。

「マタニティブルー」は出産後、誰にでもなりうる疾患だそうで、それ自体は一過性で、予後は問題ないことや早期発見と十二分なフォローが大切であること。また、産後から1年は要注意でフォローできる早急な支援体制の確立が望まれ、訴えを出せない人もいることを見逃さないで！という注意点も教えていただきました。

翌日は、「目の前の悩み事をわくわくの未来に変換する魔法の質問」をテーマに渡邊そのみ氏のお話を伺いました。

この「魔法の質問」は、日本メンタルヘルス協会認定心理カウンセラーのまつだみひろさんが、カウンセリングやコーチングの理解をベースに「魔法の質問」を開発されました。「魔法の質問」とは、質問されるだけで、相手には魔法にかかったような変化が起きます。つまり、質問が繰り返され、応えるうちに、気づかないことに気付き、やる気と能力が引き出され、行動が起こせるようになります。いい質問って魔法だなと思ったことから、「魔法の質問」と呼んでいるそうです。いい質問をするコツは、答えを期待せず、誘導しない。質問されて出た答えはすべてが正解であり、答えられなくても良いというものでした。

その一部を紹介させていただくと、悩んでいることが解決したと想定して、未来質問ゲームをします。「それを解決したら、どんなワクワクの未来が待っていましたか？」「わくわくの未来であなたがやりたいことは何ですか？」「ワクワクの未来につながる一歩はなんですか？」——そうした効果的な質問をされることで、自分の中から答えがでてくるというものです。

他の地域で同じ活動をしているオーガナイザーが顔を合わせて学んだり交流する機会は、また頑張っていこうという大きな力になっています。（牧野）



感謝カンゲキあめあられ!

支援者 永井祐子さん

14年程前、我が子がお世話になったK-netひろばに、保育者としてお手伝いさせていただいているご縁に感謝しております。子ども達が大きくなった今、小さな子どもたちに関われる楽しみは大きいです。広場の存在は、私にとっても子どもにとっても、たくさんの方と交流(知り合える)できる素敵な場所!遊びや子育てノウハウを学べる場所!コーヒータ임は、親子が離れてみる体験とほっと一息できる場所!是非とも多くの方に利用してもらいたいと心から思います。来てよかった!と思えるそんな場所です。

私は、会員になって6年程になりますが、ピッコロで多くの出会いと経験をさせていただいています。中でも、1歳から6歳まで定期的を送迎をしたI君との時間は、子育てをもう一度させてもらったようなかけがえのない思い出でいっぱいです。私が行く日をいつも楽しみにしてくれて“ありがとう”と伝えたい。通った道や遊び、夕食の時間を思い出すと胸が熱くなります。

いつの日か、、、出会った子どもたちが大人になって、また会える日を夢見て、この清瀬で未永く子どもに関わっていきたいと思っています。



清瀬なら安心して子育てできる!!

利用者 O.Aさん



昨年末に3人目を出産し、現在4度目(!)となるホームビジターを利用中です。

2人目妊娠中に清瀬市に引っ越ししてきましたが、初めてホームビジターを利用したのは2人目の出産直後、2度目のホームビジターはその2人目の離乳食が始まり食物アレルギーが発覚して落ちこんでいた頃、3度目のホームビジターは3人目を妊娠して身体がきつかった頃。そして今回4度目となるホームビジターは、上の子2人が夏休みに入ったのに連日の猛暑で自宅にひきこもり状態になってしまっている今現在です。

初めてホームビジターを利用する前は、一般市民の方にボランティアで来ていただくからには、何か特別困っていないといけないんじゃないかと思っていました。食事作りや入浴・沐浴介助、子どもの遊び相手といった分かりやすく具体的なヘルプは養育支援ヘルパーを利用すれば済む話なので、“地域の先輩ママに無償で来てもらえるサービス”と言われても正直ピンときませんでした。でも、利用してみて自分でもビックリ!誰かが傍にいてくれるだけ、誰かに話を聴いてもらうだけでこんなに気持ちが落ち着くとは!!

子育てに追われる毎日の中で、1つ1つはちょっとしたことだしわざわざどこかに相談に行くほどでもないのですが、改めて「何か困っていることは?」と聞かれても出てこないのですが、産後って自分が思っている以上に“会話に飢えている”んですよね。夫の帰りが遅かったりすると、ほんとに1日中誰とも会話することなく終わってしまいがち。私自身、ビジターさんとたわいもない話がができる時間が有難く、ビジターさんがそこにいてくれるだけでホッとしてリフレッシュできました!

“ビジターさんに来てもらうだけで救われる”体験にすっかり味をしめて、その後も2度3度と利用させていただき、さすがに4度目のホームビジターを申し込む際は自分の図々しさに気が引けましたが、コーディネーターさんが「全然いいですよ~♪」とおっしゃってくださったので、お言葉に甘えて、ビジターさんには前回子どもたちに大好評だった“一緒にクッキング”プラス、今回はなんと“我が家の整理収納アドバイス”までお願いしてしまいました!凄いい…こんな相談まで対応してくださるビジターさん…ありがとうございます!!

地域の方が、このような様々な形で子育てをサポートしてくださり、顔の見える繋がりができていくホームビジター制度は、素晴らしい取り組みだと思います。産前産後の1番大変な時期に「地域の方にしっかり支えてもらった」という経験は、その後長く子育てしていく上での“自信”のようなものに直結する気がするのです。「地域の方に温かく見守ってもらえている」という安心感や「地域の方に大事に思ってもらえている」という肯定感のようなものは、目には見えませんが決して数値で測れるような類ではありませんが、そういう実感の積み重ねが「これなら私も子育てしていけそうだ」という前向きな気持ちに繋がっていくのではないのでしょうか。私がこの清瀬を「いい街だな」と思えて、「ここなら安心して子育てできる」と確信できるのは、やはりホームビジターのお陰です!こんな素敵な子育て支援の輪が、より多くのママやパパに届き、1人でも多くの子どもたちの笑顔に広がってほしいなと思います。そして私も、子育てが落ち着いたら(←ウーン20年後??)清瀬の先輩方からいただいたたくさんのご縁とご恩を次の世代にお返ししていきたいなと思います。

これからもどうぞよろしくお願いいたします!!



